

博士論文要旨

<p>学籍番号</p> <p style="text-align: center;">1218002</p>	<p>氏名</p> <p style="text-align: center;">堀田 将士</p>
<p>論文題目</p>	<p>特別養護老人ホームの入所者のその人らしい生活を支える看護実践のあり方に関する研究</p>
<p>目的：本研究の目的は、特別養護老人ホーム（以下、特養とする）の入所者のその人らしい生活を支える看護実践のあり方を検討することである。</p> <p>方法：【研究1】A特養の看護職の入所者のその人らしい生活を支える看護実践の現状、他職種の入所者への思いや看護職への思い、入所者とその家族のA特養における生活や施設スタッフへの思い、他施設のその人らしい生活を支える看護実践の現状等を把握する。A特養の入所者のその人らしい生活を支える看護実践の現状と課題を明らかにする。【研究2】A特養の入所者のその人らしい生活を支える看護実践に向けた取り組み方針（以下、取り組み方針とする）を考案する。取り組み方針に基づいた看護実践の実施と評価を行い、取り組み方針を修正する。【研究3】看護職と他職種で取り組みを振り返り、その結果を基に施設長と取り組みの評価を行う。倫理的配慮：研究協力者に、研究目的や方法、研究への協力は自由意思であること、匿名性を確保した管理などについて書面を用いて口頭で説明し、同意を得た。本研究は岐阜県立看護大学大学院看護学研究科論文倫理審査部会の承認を得て実施した（承認年月：2019年5月【通知番号20219-A002D-2】、2020年10月【通知番号2020-A003D-2】）。</p> <p>結果：【研究1】A特養の入所者のその人らしい生活を支える看護実践の現状と課題として、看護職の入所者への関わり方、看護の方向性の共通認識、介護職への支援、家族への介入等に関連した10の内容が明らかとなった。【研究2】研究1の結果を基に、7つの取り組み方針を作成し、2名の入所者に看護実践を行った。看護実践により看護職の関わりや意識に変化があった一方で、生活を支えているという実感を得ることができていないこと等が明らかになった。また、入所者は最期まで生き方を考えたり、施設スタッフの対応にうれしさなどを感じていた。取り組み後には3つ取り組み方針を修正した。【研究3】取り組み後の評価として、看護職は入所者にこれまでの人生を踏まえて会話することや生活支援への介入に繋げることなど思いの変化があった。施設長は、看護職の入所者への関わりに変化を感じている一方で、その人らしい生活の評価に難しさなどを感じていた。また、今後の課題として他職種との協働やその人らしい生活を支える看護実践の継続が挙げた。</p> <p>考察：特養の入所者のその人らしい生活を支える看護実践のあり方として、【その人らしい生活の把握に向けた入所者への関わり】、【その人らしい生活を看護職間で共通認識し、その生活の実現に向けた看護実践を検討すること】、【他職種の専門性や現場の状況に即した連携・協働】、【家族の真の思いを把握し入所者のその人らしい生活に反映できる関わり】が重要であると考えた。また、看護の質の向上に向けて、【日々の看護実践の場を看護職のケアの質を高める機会として活用し、看護職の経験を積み重ねる】、【看護職の思いや意見を伝え合うことができる職場風土を醸成する】が必要であると考えた。特養の入所者のその人らしい生活を支えることは、人生の終末を生きる入所者が最期まで自分らしく生きることを支えることに繋がると考えた。</p>	

(別記様式7)

番 号 :

令和3年2月17日

令和3年度博士論文審査結果報告書

主 査	森 仁実
副 査	服部 律子
副 査	松下 光子

令和3年度博士論文の審査及び最終試験を実施した結果は、下記のとおりです。

記

学籍番号：1218002

氏 名：堀田 将士

審査結果：○1. 合格 2. 不合格 3. 保留

[審査結果要旨]

(1,000字以内)

論文題目「特別養護老人ホームの入所者のその人らしい生活を支える看護実践のあり方に関する研究」は、看護職とともに取り組む実践を通して、人生の晩年を生きる入所者が尊厳を保ち生活できるよう支える看護実践のあり方を追究する研究である。

入所者に必要な医療処置や健康管理など少人数で多くの役割を担い、他職種と協働した援助を行うことが求められている看護職が、日常の看護実践の中で、入所者の生活背景や思い、家族の思いや他職種の捉えている入所者の状態を把握し共有して、援助を検討し続けることの意義を明確にした本研究は、看護実践の基盤の明確化、看護実践の充実・改善に貢献する価値ある取り組みである。

対象施設の看護職が行っている入所者のその人らしい生活を支える看護実践の現状と課題の明確化、課題解決のための7つの取り組み方針原案の作成、看護職および他職種との2事例に対する取り組み方針原案に基づく実践、実践結果に基づく取り組み方針原案の修正と取り組み全体の成果の確認という研究過程全体について、対象施設の他職種を含む職員にかかわって着実に推進し、記述している。さらに、看護実践のさらなる質向上のために、本研究を継続し、発展させる必要性を提示している。

審査委員会では、これらの取り組みは本研究科の倫理基準に基づいて実施されており、論旨が明確で一貫性があり、博士論文審査基準に適合するものであることを確認した。

当該学生は審査委員会に4回出席し、主査・副査からの質問に答え、かつ直接指導を受け、最終試験に合格した。

以上のことから、本論文は博士論文として価値あるものと認める。